

留萌本線の車窓を楽しみました JR 留萌本線臨時列車を運行

JR 留萌本線の石狩沼田と留萌間を往復する乗車会が11月23日(水)町民限定で行われました。

沼田町と観光協会が主催し、50名が参加した乗車会では、家族や友人と会話しながら配られたお弁当を車内で食べたり、留萌本線の景色を満喫していました。

参加された60代女性は「深川方面には乗車するが、留萌方面はほとんど乗ったことがないので最後の思い出に参加しました」と話されていました。



また明日萌駅では、留萌本線全通112周年を記念したイベントが開催され、留萌本線スタンプが設置されたほか、数量限定の明日萌特製駅弁などが販売され、多くの鉄道ファンで賑わいました。

ドラマ「すずらん」の脚本家 清水有生さんが明日萌駅を訪れました。

12月3日(土)、NHK連続テレビ小説「すずらん」の脚本家である清水有生さんが明日萌駅を訪れました。そこで清水さんにお話しを伺うことができましたのでご紹介します。

留萌本線の廃止について

「すずらん」の物語が廃線の話でまさにドラマの通りになるうとしています。今後、喫茶店になれば、ドラマと全く同じ展開になってしまいますが、何かに活用して頂ければと思っています。

「すずらん」という作品を書くきっかけは脚本家になる前、北海道を車で旅行した時がちょうど道内の鉄路が無くなっていった時で、昔は携帯電話も無く、地図も持たない中での旅行で、駅を目印にして進んでいましたが、まちによっては線路も駅舎も無くなり、何も名残がない



状態になっていて、北海道という広大な土地に、駅や鉄路という動脈が無くなっていくことがとても侘しい気持ちでしたので、留萌本線が無くなるのは、とても寂しいです。

今後の明日萌駅の活用について

何か活用してほしいと思っています。沼田町は今、農業のまちですが、過去に遡ると炭鉱という歴史があります。

農業と炭鉱の二つの文化を大切にしたい、炭鉱という歴史を継承していくべきだと思っています。

ドラマはどうしても風化してしまうので、これからはすずらんを前面に押し出すのではなく、炭鉱の歴史や、かつてのまちの姿を語り継いでいく場所として駅舎を利用して、そこに「すずらん」というドラマがあったことも一緒に見てもらえば良いなと思っています。

駅舎や線路が無くなるとすぐに更地になってしまい、この恵比島という土地の文化が無くなってしまいます。

一度きりのイベントではなく、見どころがあって人が来てくれるような場所になってくれれば良いなと思います。